

**団体名：**ケアラー支援ネットワーク協議会（柏市）

**事業・活動名：**「介護の日フェスタ in Zoom～オンラインでつながろう～」の開催

**使途&助成金額：**機器購入、チラシ印刷代他／240,000円

### 学生のケアラーも珍しくない時代だから

ケアラー支援ネットワーク協議会は、2016年4月に発足し、ケアラーが一人だけで介護を抱え込み、地域や社会から孤立しないようにとの思いで、一般の方も含めて介護情報を提供するため、「介護者のつどい」や「福祉フォーラム」を開催してきました。

昨今は、高齢の介護者だけではなく、多様なケアラーがかかわる時代となりました。1998年を境に、配偶者やその娘、息子が介護を背負い、学生である姪や甥による介護は珍しくないそうです。これは社会問題になっている「介護虐待」や「介護離職」等の課題が益々深刻になることを意味しているとのことです。

### 「ケアラー」って？

ケアラーとは、お年寄りを世話する人という認識が私は強かったのですが、それはもちろん、認知症、障がいのある家族、引きこもりや不登校の家族の世話をしている人、遠くに住む親や近親者が心配で気遣っている人、ご近所のお年寄りや障がいのある人の世話や手伝いをしている人、アルコール・薬物・ギャンブル依存症の家族を抱えている人、ハンディのある子どもを育てている人など、このような方たちはすべてが「ケアラー」になるそうです。他人事ではなく、誰もがいつケアラーになるか、もしかして気づかないうちにケアラーになっている時代なのだと感じました。

### 「ケアラー」に寄り添って

ケアする日常が当たり前すぎて、自分が「ケアラー」だと気づかず、助けを求められない人も多いと聞きます。

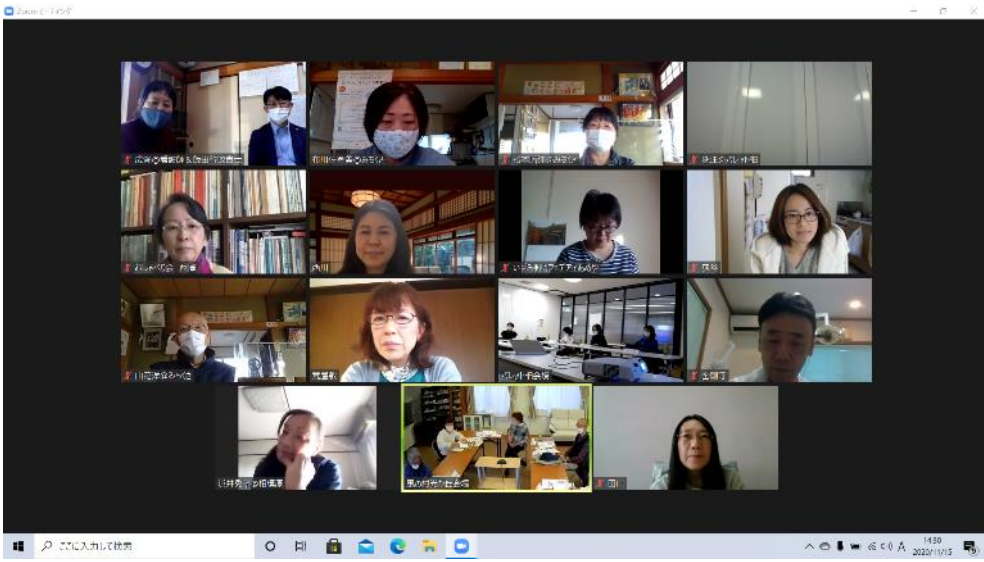
ケアラー支援ネットワーク協議会では、ひとりで悩まないで！あなたのそばに支援者がいます！との思いで、「ケアラズカフェ」や「オレンジカフェ」、「介護者のつどい」を開催しています。こんな場があることを多くの方に知ってもらうことが大切だと思います。

11月15日に「介護の日フェスタ in Zoom～オンラインでつながろう～」を開催し、今回の助成金を活用して頂きました。当初は大きな会場に参加者を集めて開催する計画でしたが、コロナ禍によりオンラインを活用した企画に変更しました。介護者の思いを聴き、専門職からのアドバイスを受け、介護が終わった方からのアドバイスもいただくなど学びの機会になり、アンケートから全員が継続を望んでいるとのことです。早速 Zoom による介護者のおしゃべり会の開催を予定していると嬉しいご報告を頂きました。

### 地域包括ケアを実現するために

今回のフェスタでは、認知症看護認定看護師、訪問歯科診療医師、在宅栄養専門管理栄養士など、専門職と介護職を支援する団体が多く参加し、ケアラーの悩みの解決だけではなく、一般の方も専門職もボランティアもそれぞれが学ぶ場となっていることが分かりました。目的としている、専門職と介護家族を支援するインフォーマルな団体とが連携を深め、地域で包括的なケアを実現するという活動をこれからも継続してほしいと思いました。

そして、この助成を通して組合員がケアラーのことを知り、一人でも多くの必要な方が支援につながるきっかけになればと思います。



福祉委員 田中寛子